

西暦	城主	地域の支配者	関連出土品	おもなできごと
1565	飯尾賢連・乗連・連竜	今川氏	かわらけ(灯明皿) 瀬戸美濃天目茶碗	1560(永禄三)年 桶狭間の戦い 1565(永禄八)年 今川氏真、飯尾連竜を殺害 1568(永禄十一)年 徳川家康、遠江に侵攻 1570(元亀元)年 家康、浜松城築城開始
1570	徳川家康	徳川氏	かわらけ(灯明皿) 瀬戸美濃折皿	1572(元亀三)年 三方原の戦い、家康敗北 1578(天正六)年 浜松城修築(天正九年まで) 1579(天正七)年 築山殿と信康を殺害・秀忠誕生
1580	(城代)菅沼定政	豊臣氏	堀尾期軒丸瓦 堀尾期軒平瓦	1586(天正十四)年 家康、秀吉の臣下となる 1590(天正十八)年 秀吉、家康に関東移封を命ず
1590	堀尾吉晴・忠氏			1598(慶長三)年 秀吉没する 1600(慶長五)年 関ヶ原の戦い 1601(慶長六)年 家康、東海道に伝馬制を制定
1600	松平忠頼	徳川氏 (将軍家)	太田氏栴檀紋軒丸瓦	1616(元和二)年 家康没する 1619(元和五)年 徳川頼宣、紀伊に移封される 1620(元和六)年 幕府、諸大名に大阪城の修築を命ずる
1609	水野重仲			1655(明暦元)年 大風雨により、浜松城内に被害
1619	高力忠房			1675(延宝三)年 小天竜が彦助堤により締切り 1680(延宝八)年 大風により、浜松城内に被害
1638	松平乗寿			1691(元禄四)年 城内の屋敷で火災 1700(元禄十三)年 城内の屋敷で火災
1644	太田資宗・資次			1706(宝永三)年 城内の屋敷で火災 1707(宝永四)年 宝永地震(二の丸御殿被災)
1678	青山宗俊・忠雄・忠重			1822(文政五)年 鉄門東櫓を修理する
1700	本庄(松平)資俊・資訓	井上氏井桁紋軒丸瓦	本庄(松平)氏 繫九目結紋軒丸瓦	1854(安政元)年 安政地震(二の丸御殿被災)
1702	松平信祝・信復			1860(万延元)年 天竜川が決壊し、城下に被害 1868(慶応四・明治元)年 戊辰戦争、明治と改元 1872(明治五)年 浜松城払い下げ 1873(明治六)年 廃城令
1729	松平(本庄)資訓・資昌	井上氏井桁紋軒丸瓦	井上氏井桁紋軒丸瓦	1945(昭和二十)年 浜松大空襲 1948(昭和二三)年 元城小学校二の丸跡地に復興 1950(昭和二五)年 浜松城公園開設 1958(昭和三三)年 復興天守建設 1959(昭和三四)年 天守曲輪・本丸一帯を市史跡指定 2014(平成二六)年 天守門復元 2017(平成二九)年 中部学園開設 2021(令和三)年 西端城曲輪等を市史跡に追加指定
1749	井上正経・正定・正甫			1868(慶応四・明治元)年 戊辰戦争、明治と改元 1872(明治五)年 浜松城払い下げ 1873(明治六)年 廃城令
1758	水野忠邦・忠精	井上氏井桁紋軒丸瓦	井上氏井桁紋軒丸瓦	1945(昭和二十)年 浜松大空襲 1948(昭和二三)年 元城小学校二の丸跡地に復興 1950(昭和二五)年 浜松城公園開設 1958(昭和三三)年 復興天守建設 1959(昭和三四)年 天守曲輪・本丸一帯を市史跡指定 2014(平成二六)年 天守門復元 2017(平成二九)年 中部学園開設 2021(令和三)年 西端城曲輪等を市史跡に追加指定
1800	井上正春・正直			1868(慶応四・明治元)年 戊辰戦争、明治と改元 1872(明治五)年 浜松城払い下げ 1873(明治六)年 廃城令
1817	水野忠邦・忠精	井上氏井桁紋軒丸瓦	井上氏井桁紋軒丸瓦	1945(昭和二十)年 浜松大空襲 1948(昭和二三)年 元城小学校二の丸跡地に復興 1950(昭和二五)年 浜松城公園開設 1958(昭和三三)年 復興天守建設 1959(昭和三四)年 天守曲輪・本丸一帯を市史跡指定 2014(平成二六)年 天守門復元 2017(平成二九)年 中部学園開設 2021(令和三)年 西端城曲輪等を市史跡に追加指定
1845	井上正春・正直			1868(慶応四・明治元)年 戊辰戦争、明治と改元 1872(明治五)年 浜松城払い下げ 1873(明治六)年 廃城令
1868	(徳川家達)			1945(昭和二十)年 浜松大空襲 1948(昭和二三)年 元城小学校二の丸跡地に復興 1950(昭和二五)年 浜松城公園開設 1958(昭和三三)年 復興天守建設 1959(昭和三四)年 天守曲輪・本丸一帯を市史跡指定 2014(平成二六)年 天守門復元 2017(平成二九)年 中部学園開設 2021(令和三)年 西端城曲輪等を市史跡に追加指定

※注意事項  
 ・新聞やテレビ、ホームページ、市刊物等で現地説明会の様子が紹介される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。  
 ・SNS やインターネットに写真・動画を掲載する場合は、個人が特定されるような写真や動画の掲載を控えていただくようお願いいたします。

浜松市文化財課  
053-457-2466

# 浜松城跡43次発掘調査

— 現地説明会資料 —

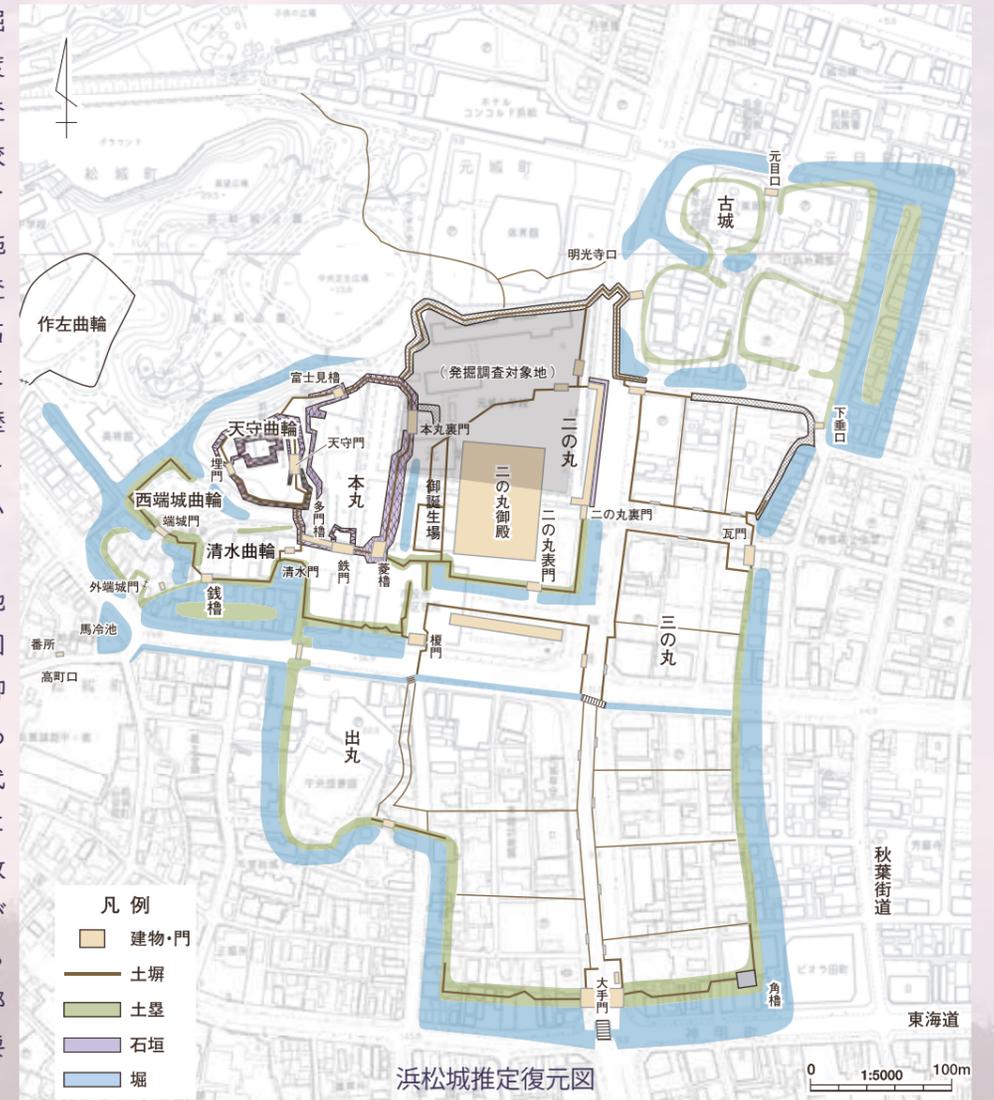
浜松市文化財課

2021.12.25

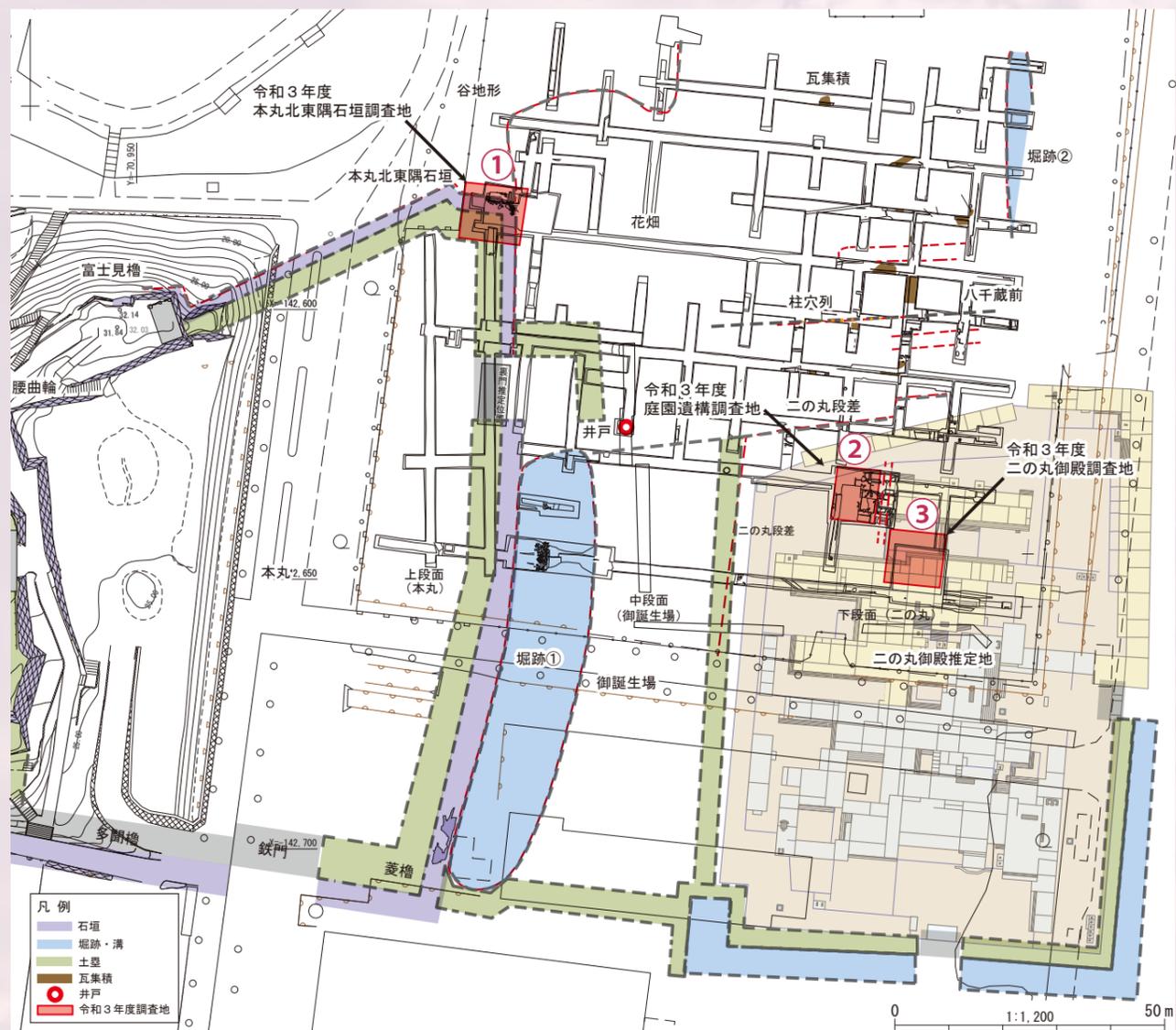
浜松城は、三方原台地の東縁部にある段丘を利用した平山城です。1570年、岡崎から浜松へと拠点を移した徳川家康は、今川氏配下の飯尾氏などにより整備された引間城を浜松城と改称し、西側の丘陵部へ拡張・整備を行いました。1590年、家康の関東移封に伴い豊臣氏家臣の堀尾吉晴が浜松城に入りました。現在の浜松城公園でみられる浜松城の石垣の多くは、堀尾氏により構築されたものとみられます。1600年、関ヶ原の戦いに家康率いる東軍が勝利し、浜松城は徳川譜代の大名が治めるようになりました。江戸時代、浜松城は浜松藩の拠点として近世城郭へと改築されました。浜松藩主は、交代が多く、10家 22代を数えます。いずれも徳川譜代の大名が藩主を務め、各家とも在任期間が1代～3代と短期間でした。浜松城とともに整備された城下町は、現在の浜松市街地の基礎になっています。明治時代になり、1873年に廃城令が發布されました。この頃、城内の建物や土地が払い下げられ、市街地化しました。1950年に浜松城公園が開設、1958年には復興天守閣が建築され、2014年には天守門が再建されました。なお、1959年に浜松城の天守曲輪と本丸一部が、2021年に西端城曲輪と本丸の一部が市史跡に指定されました。

2021年度の発掘調査は、2019年度及び2020年度調査に続き、元城小学校跡地を対象として2021年6月から実施し、2020年度調査で確認した本丸石垣や二の丸の遺構についてより詳細な歴史情報を得ることを目的として行っています。

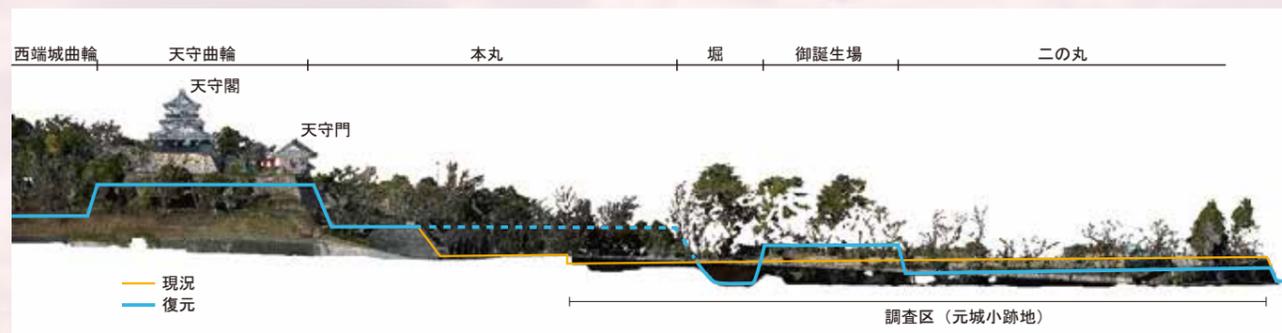
元城小学校跡地は、江戸時代の絵図によると、本丸や御誕生場、二の丸にあたります。江戸時代の浜松城の二の丸には、藩主が居住や政務を執り行う御殿があったことが知られ、浜松藩の中枢部があった非常に重要な場所です。



# 浜松城跡43次調査の成果



令和元年・2年の調査成果と令和3年度の調査地（御殿等の位置は推定）



浜松城の構造（南からみた調査対象地周辺）

これまでの調査により、浜松城の本丸・御誕生場・二の丸の構造が明らかになってきました。天守閣や天守門がある天守曲輪が最も高い位置にあり、三の丸へ向かい段々低くなっていることがわかります。御誕生場と二の丸の境界部では、1.2m程度の段差が確認でき、二の丸が一段低い場所にあったことがわかりました。調査対象地においては、上段面に本丸が位置し、中段面に御誕生場、下段面に二の丸と続きます。

## ③二の丸御殿の構造調査

### 建物基礎と雨落ち溝を確認

2021年の調査で二の丸御殿の建物基礎を発見し、その詳細な構造が明らかになりました。確認した遺構は、柱を支える礎石や礎石の据え付け穴、軒先の雨水を受ける溝である雨落ち溝などです。礎石と礎石の中心間の距離は約2mであることから、建物は6尺5寸（1.97m）を基準に設計されていた京間の建物といえます。基準に京間を用いることは、比較的古い時期によく見られる特徴であることから、今回検出した建物遺構は江戸時代の二の丸に建てられた御殿の基礎と考えられます。

また、東西に並ぶ礎石の北側には、瓦で側面を囲った溝が総延長4mほど確認できました。これは軒先に雨水を受ける「雨落ち溝」と考えられます。検出した雨落ち溝が設けられていることから御殿のうち北側に開けた部分であることも判明しました。



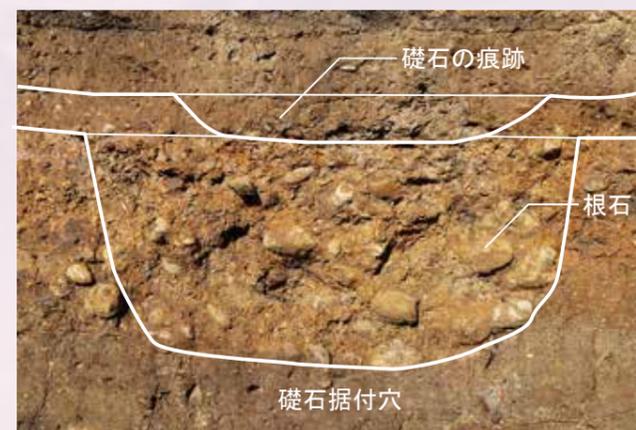
検出した二の丸御殿の基礎配置と雨落ち溝



礎石と雨落ち溝

### 礎石と雨落ち溝

建物基礎（礎石）6石と礎石を設置するために掘られた穴（礎石据付穴）や礎石の痕跡を6箇所以上確認しました。また、礎石列の北側には雨落ち溝が敷設されていることも明らかになりました。列をなした礎石と雨落ち溝を確認できたことは、発掘調査成果と二の丸御殿を描いた絵図を照合する有力な手がかりとなります。



礎石据付穴

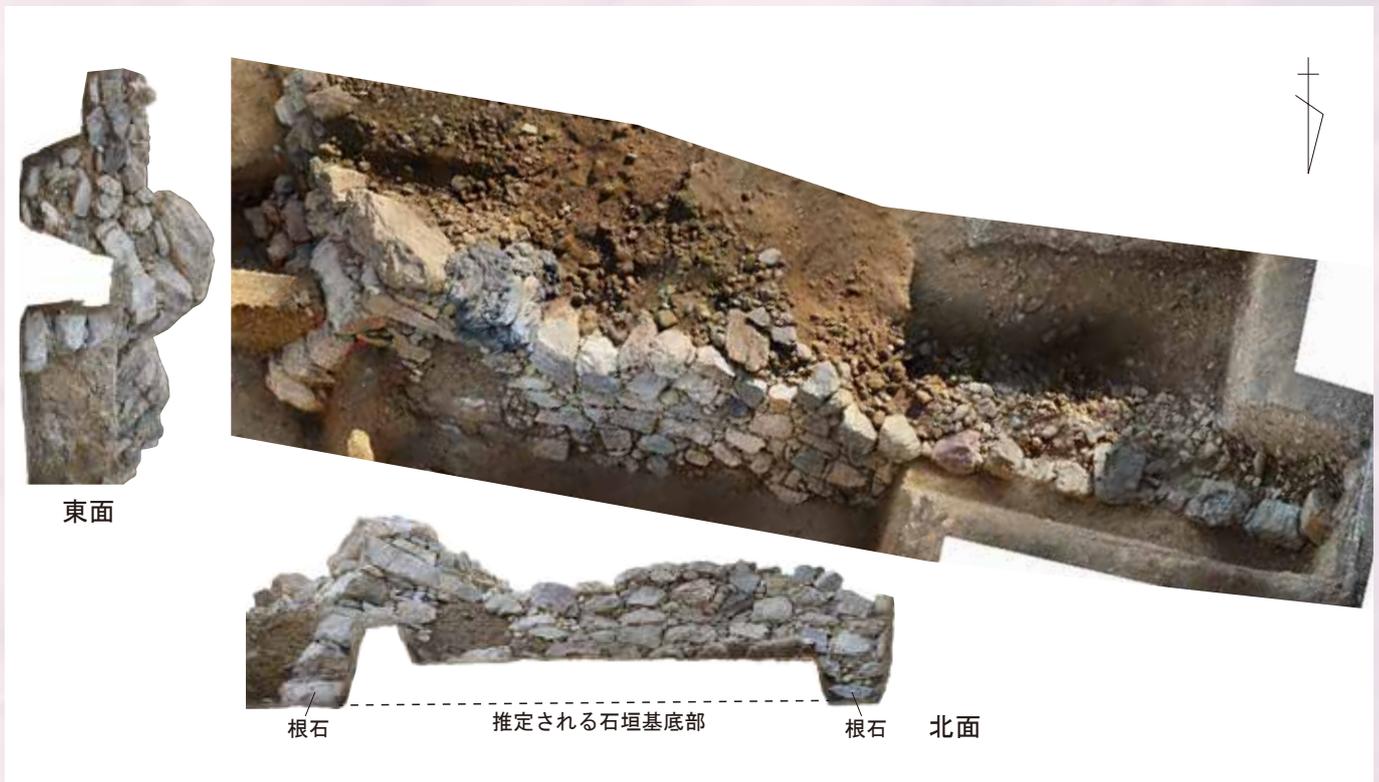
### 礎石据付穴

整地した地盤に、直径0.6～0.8m、深さ0.6m程の穴を掘り、根石と呼ばれる礫が敷き詰め、その上に礎石が据え置かれていました。礎石が取り外されたものでも、礎石据付穴や抜き取られた礎石の痕跡から礎石の配置を推定することが出来ます。

## ①本丸北東隅石垣の調査

石垣は、本丸の北東部隅に位置します。隅角部が検出できたため本丸の規模が明らかになりました。隅角部は石材の長短を交互に積み上げる算木積み技法が用いられ、石垣背面には裏込めが幅1m程確認できます。天守曲輪の石垣との共通性から、1590年から1600年の間に浜松城主を務めた堀尾氏が築いた石垣と考えられます。

北面は元城小学校跡地の境界を越え、本丸方向へ続く石垣が残存している可能性が高まりました。



浜松城石垣のオルソ画像



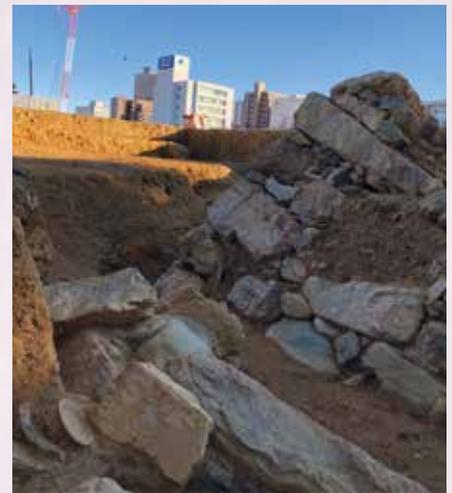
### 石垣の構造 1

根石（石垣の最も下にある石）を固定するために行った作業の痕跡を確認することができました。根石の前方に20cmほどの幅で、小石を敷き詰め、根石が動かないように、固定している様子が窺えます。



### 石垣の構造 2

南北に伸びる石垣東面では、根石から上へ3石までの範囲において、石垣面に凹凸がみられ、それより上方は平滑な石垣面に仕上げられています。下3石は人為的に埋められており、石垣構築時から埋めることを前提にしていたと考えられます。



### 崩落した築石とかわらけ

本丸北東隅石垣の北側には、崩れた状態の石材が集中して出土しました。地震等によって石垣が崩落した痕跡と想定できます。さらに、崩落した石垣に添えられるように19世紀頃とみられる完形のかかわりが出土しています。なんらかの儀礼的な行為が行われた痕跡とみられます。

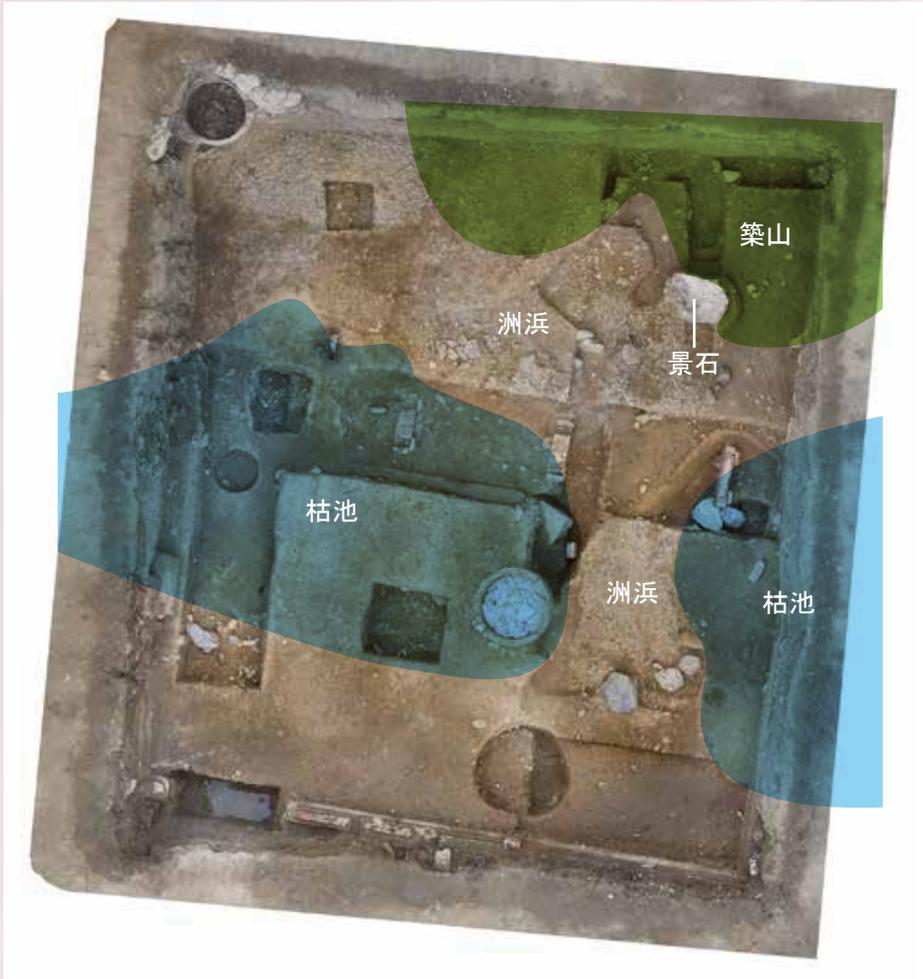
## ②庭園遺構調査

### 枯山水庭園を確認

二の丸の北西隅において円礫を敷き詰めた洲浜（すはま）、大型のチャートを用いた景石（けいせき）、三和土（たたき）を用いた枯池（かれいけ）によって構成された枯山水庭園を検出しました。庭園遺構は枯池内から出土した瓦の特徴から江戸時代のものと捉えられます。

発掘調査により確認した庭園遺構の範囲は東西約9m、南北約10mにおよびます。

庭園は南からの景観を重視して作られています。庭園の南側には奥御殿の中でも重要な空間があったと推定できます。



庭園遺構のオルソ画像



洲浜・築山と景石

### 洲浜・築山と景石

小型の円礫が敷きならされた部分は、洲浜と呼ばれます。洲浜には高低差があり、円礫が見られない北側部分には築山があったとみられます。

景石には、長辺0.8m、短辺0.6m、高さ0.5mほどあるチャートが用いられています。



枯池と洲浜

### 枯池と洲浜

枯池は三和土を用いてつくられています。枯池底部の三和土は西側中央部が最も低くなっています。洲浜と枯池の境界部分では、洲浜の末端を覆うように三和土が施されています。枯池の平面形は不整形で、南北約5m、東西は調査区外に続くため10m以上の規模と捉えられます。

### 用語解説

**枯山水** 水を用いず石や砂利等で山水風景を表現した庭園。

**洲浜** 池（枯池を含む）の水際の空間。円礫を敷きならすことが多い。

● **築山** 庭園内の人工の山。

● **景石** 庭園に配置された大型の石。

● **枯池** 水がない池。石・砂利や三和土などで構成される。